

共創でエンハンス！ ライフサイエンス！

ライフサイエンス委員会 委員長

小柳 邦生 氏

(所属：中外製薬株式会社)



interview

自己紹介

入社以来、バイオ医薬品の特許業務を専門としております。ライフサイエンス委員会では2023年度より小委員長を務め、2025年からは委員長に就任しております。

趣味：ランニング 古着屋巡り 映画鑑賞

尊敬する人：トム・クルーズ

座右の銘：手に入れたいののはハッピーエンドじゃない 鍛え抜かれたハッピーマインドだ

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

ライフサイエンス委員会では、製薬、食品、農薬、医療機器など幅広い医薬・バイオテクノロジー関連分野を対象とした知的財産に関する研究活動を行っております。委員会メンバーは各分野の専門家で構成されており、産業界の最新動向や法的課題に対応した実践的な研究を推進しています。

2025年度研究テーマ

2025年度のライフサイエンス委員会では、以下の5つの重点研究テーマに取り組んでいます：

- ・ Amgen Sanofi米国最高裁判決の影響分析
- ・ 特許延長制度およびデータ保護に関するグローバル調査
- ・ 臨床段階における知的財産戦略の研究
- ・ 次世代技術の特許出願戦略および製品保護戦略の研究
- ・ 生物多様性条約（CBD）と知的財産制度との関係に関する研究

テーマ選定背景と理由

当委員会の研究テーマは、最新の判例や法改正などの外部環境の変化、あるいは委員が日々の実務で直面する課題や問題点から選定されています。

例えば、「Amgen Sanofi米国最高裁判決の影響分析」テーマでは、同判決が製薬分野のみならず、バイオテクノロジー全般における発明の実施可能要件や記載要件に広範な影響を与える可能性があることから、判決後の実務への影響と対応策について包括的な研究を行うこととしました。この研究では、米国特許実務の変化だけでなく、グローバルな特許戦略への波及効果も分析対象としています。

また、「特許延長制度およびデータ保護に関するグローバル調査」テーマでは、製品のライフサイクル管理において重要な特許期間延長制度や医薬品データ保護制度について、各国・地域間の相違点と共通点を体系的に整理します。これらの制度は国ごとに

異なるため、グローバルに事業展開する企業にとって実務上の課題となっています。本研究では、主要国の最新制度を比較検討し、最適な戦略立案のための指針を提供することを目指しています。

このように、当委員会では最新の知財トレンドや実務上の課題に直結したテーマを選定し、委員それぞれが自身の専門性や興味に基づいて研究グループに参加する形で活動を進めています。研究成果は、知財管理誌の論説としてまとめられ、ライフサイエンス業界全体の知見の向上に貢献していくことを目指しています。

Q 委員会の特長／魅力は？

当委員会には、製薬、バイオテクノロジー、医療機器など、ライフサイエンス業界の様々な企業から専門家が集まっています。委員会活動を通じて、同じ業界で活躍する仲間とのつながりを築くことができます。日々の実務で直面する課題について気軽に相談できる関係性を構築でき、業界特有の悩みや解決策を共有する貴重な機会となっています。

また、特許庁、製薬団体、研究機関などの外部機関との定期的な意見交換会を開催しています。ライフサイエンス分野における最新の特許動向、審査実務の変化、国際的な知財戦略について直接学ぶことができます。第一線で活躍する専門家との対話を通じて、教科書では得られない実践的な知識を吸収できることが大きな魅力と考えています。

Q 委員会としてのこだわりは？

当委員会は、「共創でエンハンス ライフサイエンス」をモットーに掲げ、多様な専門性を持つ委員が一堂に会し、知識と経験を共有することで相乗効果を生み出すことを目指しています。各委員が主体的に参加し、互いの視点や考えを尊重しながら刺激し合うことで、個人の成長と委員会全体の発展を目指しています。

当委員会は、単なる情報収集の場ではなく、活発な議論と協働を通じて、楽しく学び合う一年間を過ごすことをミッションとしています。委員会活動では、最新の技術動向や法改正の調査・研究だけでなく、実務上の課題解決に向けた実践的なアプローチも重視し、理論と実務の両面から知見を深めていきます。また、委員会内での学びを業界全体に還元するため、研究成果の発表や情報発信にも積極的に取り組みます。このような多角的な取り組みを通じて、ライフサイエンス分野の知財活動の質的向上と発展に寄与したいと考えています。

以上